

金日成主席とチュチェ思想

ヨーロッパ・チュチェ思想研究学会理事

ルーマニア全国委員会委員長

ヴァシレ・オルレヌ

親愛なる友人のみなさん、

親愛なる同志のみなさん、

みなさん、わたしはまず、朝鮮労働党の金正恩総書記に感謝の意を表します。

また、私たちがチュチェ思想研究組織と社会主義と進歩を志向する諸政党と政治家の間の連携を強化する活動をくり広げるにより、国際社会主義運動に関心と支持を寄せているということを閣下に確言する次第です。

ヨーロッパ地域チュチェ思想研究委員会の指導部と朝鮮社会科学者協会に謝意と敬意を表します。

親愛なる友人のみなさん、

セミナーのテーマが特別に重要です。われわれは朝鮮民族の慈父であり、チュチェ思想の創始者である金日成主席にたいする深い尊敬心を抱いて同セミナーに対しなければならないと思います。われわれはこのテーマにたいする研究が時間と指導、深い考慮を必要としていることを認めなければなりません。

民族の太陽、解放の恩人、

金日成主席の生涯と活動を短い1, 2ページのペーパーでみな語ることはできません。

金日成主席の回顧録は全8巻にわたる5,000ページであり、主席が生前に発表した著作は10,000余件として100巻あまりの本に収められています。その中には文化分野と文学作品にたいする著作もありますが、その一部が映画に作られ上映されています。

金日成主席は1912年4月15日、小さな村の万景台のある反日闘士の家庭で誕生しました。

1925年、金日成主席は国の独立を達成する前には再び帰るまいという固い決心を抱いて祖国を後にしました。

翌年の10月、金日成主席は朝鮮の新しい世代の革命家たちで打倒帝国主義同盟を結成しました。日本帝国主義を打ち破り、朝鮮の解放と独立を成し遂げることを当面の課題として示した打倒帝国主義同盟の結成は、朝鮮の民族的解放をめざす闘争において一つの新たな出発点となりました。

1905年から1945年まで朝鮮にたいする軍事的占領の時期に日本帝国主義は百万名の朝鮮人を殺戮し、840万名の朝鮮の青壮年を徴用して非人間的な条件での労働を強要し、飢餓

と拷問で極度の疲労を与えました。また、20 万名の朝鮮の若い女性を強制連行して日本軍の性奴隷にしました。日本帝国主義は朝鮮で文化財を強奪し、朝鮮人が朝鮮の言葉と文字を使えないようにし、はては朝鮮人の名前を日本式に変えることを強要しました。

1932年4月25日、金日成主席は朝鮮人民革命軍を創建しました。朝鮮人民革命軍が創建されたことにより、朝鮮人民は自らの武装力に依拠して民族解放のための闘争を本格的に展開するようになりました。

金日成主席は全民族を解放聖戦に呼び起こし、彼らを一つの力量として結束するために1936年5月、祖国光復会を結成しました。

金日成主席は15 星霜の抗日武装闘争を勝利へと指導しました。主席は敵の数的、軍事的及び技術的優勢を政治的・思想的威力で打ち負かすべきであるという思想を打ち出し、朝鮮民族を抗日大戦へ呼び起こしました。

偉大な闘士である金日成主席の賢明かつ洗練された指揮の下、朝鮮人民革命軍はすべての戦闘で敵に甚大な打撃を与えました。

植民地諸国における民族解放闘争の基本形態の一つである遊撃戦は、特別な歴史的意義を有します。遊撃戦は国家的後方や正規軍の支援がなくても主導権を握り、少数の力量で敵を撃退できる変化に富んだ戦略でした。大部隊作戦と小部隊作戦を正しく結びつけるという方針と解放地区形態の遊撃区と半遊撃区を創設するという方針は、積極的な武装闘争を可能にする特異な戦略的・戦術的方法でありました。

朝鮮人民は金日成主席を民族の太陽、解放の恩人として仰ぎ、抗日聖戦に奮い立ちました。

実に、金日成主席は全滅直前の運命にさらされていた一民族を救い出した朝鮮民族の慈父でした。傑出した戦略家の指導の下に展開された武装闘争によって朝鮮民族は1945年8月15日、もっとも野蛮的な植民地搾取のくびき、日本帝国主義ファシズムのくびきから脱するようになりました。

金日成主席の指導の下に立ち上がった朝鮮人民革命軍と人民の闘争と偉勲は歴史に永遠に記録され、進歩的力量と朝鮮人民の心の中に明るい光として残っているでしょう。

伝説的な軍事戦略家、非凡な政治家

1930年6月30日から7月2日まで行われたカ倫会議で金日成主席は「朝鮮革命の進路」という歴史的な演説をおこないました。

演説で金日成主席は今日、世界的に自主時代の指導思想として公認されているチュチェ思想を創始し、抗日武装闘争路線を示しました。民族解放の偉業は他人によってではなく、そして平和的な方法ではなく自力に依拠して、かつ武装闘争を通してのみ成し遂げることができると示したことにより、この政治路線は朝鮮の革命家たちにとって思想的・精神的旗印となりました。

第2次世界大戦後、人民大衆の革命闘争の拡大は世界地図上に新しい独立諸国を出現させ、そのうち一部の国々は中央及び東ヨーロッパでのようにソビエト化の道を選びました。大国によって生じた分裂について論じようとは思いません。

ソ連ではレーニンとスターリンのような主要指導者の没後、ニキタ・フルシチョフのような新たな膨張主義政策を主張する人々が政権を掌握し、ソビエト国家の政策に帝国主義的性格を付与しました。

金日成主席は創建されてまもない社会主義国家を守るための対策を講じなければなりません。金日成主席は深奥な分析にもとづいて朝鮮人民の運命を救うために、朝鮮の自主権を固守するためにチュチェ思想を発展させました。

金日成主席が述べているように、自主の思想であるチュチェ思想では思想における主体、政治における自主、経済における自立、国防における自衛の原則を示しています。

チュチェ思想の創始者である金日成主席が歴史上はじめて他の存在と根本的に区別される人間の本質的特性、世界における人間の地位と役割について解明したことにより、社会・歴史にたいする見解と観点では根本的な変化が起こりました。

1994年以後、金正日総書記は党と国家にたいする指導を継承し、チュチェ思想を発展豊富化しました。これは自主権守護の強力な保証となります。朝鮮民主主義人民共和国は真の自主権をもっている指折りの国です。

終わりに、わたしは去る世紀の朝鮮民族の傑出した英雄である金日成主席の生涯と活動について短いペーパー上でみんな語るのは無理だということをもう一度強調しながら次のように話したいのです。歴史だけではなく、帝国主義が支配する現世で、国の自主権を実現し強固にするためにたたかう全人民の努力についてよく知り、二度と資本主義の奴隷にならないために闘わなければなりません。

一時期は歴史のおよび社会的進歩の道を歩んでいた多くの民族が、賃金奴隷制に基づく資本主義的生産方式がどこかにある道を歩んでいます。